

三島駅南口再開発事業

アナ： 「市長が語る 2019 三島」第2回の今日は、「三島駅南口再開発事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 今まさに、三島駅南口ロータリーの西側では、建設工事が進んでいますね。鉄骨が組みあがり、徐々に建物の形も見えてきました。

市長： 東急電鉄・東急ホテルズが事業主体となり、富士・箱根・伊豆の玄関口にふさわしい観光と交流の拠点として、約200室のホテルと、低層階に、地域の特産品を扱う物販や飲食店もある14階建ての複合施設を整備しています。建設工事は順調で、昨年末で地盤の掘削を終え、今は建物の骨組みを作る躯体工事が進んでいます。

アナ： あの場所からですと、富士山がとてもきれいに見えると思います。どのような施設になりそうでしょうか。

市長： 雄大な富士を背景に、三島らしさ・日本らしさを感じられるよう、様々な趣向を凝らした施設になるようです。大きな暖簾をくぐると溶岩と湧き水を感じられるロビーラウンジ、富士山を堪能できるよう、窓際にソファとしても使えるデイベッドが置かれた客室、上層階には、箱根西麓などの地の食材を活かした料理を提供するレストランなどが計画されています。先頃、ホテルの名称が「富士山三島東急ホテル」に決まったと発表されました。来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックの開催前、2020年6月に開業予定です。完成を楽しみにお待ちください。

アナ： 東京オリンピック・パラリンピックをきっかけに、海外からも多くのお客様が期待できそうですね。三島の新たな顔となる施設の完成が、とても待ち遠しいです。

そして、駅ロータリーの東側についても、昨年夏ごろに事業協力者が決まったというニュースがありました。現在の状況は、いかがでしょうか。

市長： 南口ロータリーの東側につきましては「市民の健康づくり」などをコンセプトとした拠点を整備しようと、権利者の皆さんによる準備組合と連携しながら、再開発事業を進めています。現在は、事業協力者であるミサワホーム株式会社を代表企業とする「アスマチ三島プロジェクト共同企業体」の協力を得て、市民説明会などでお寄せいただいた市民の皆様からのご意見やご提案を踏まえ、基本計画案を検討しております。

アナ： 広報みしまに市民説明会のアンケート結果が紹介されていて、様々な提案や意見がありました。市長ご自身はどのように受け止めていますか。

市長： 将来の発展を見据えまして、学生や子育て世代、高齢者、観光客などをターゲットに、カフェ、レストラン、スーパー、医療施設、子育て支援施設、みやげ物店など、多様なご提案を頂きました。駅前の利便性向上や、玄関口にふさわしい街並み、地域経済の活性化など、市民の皆様がこの事業に寄せてくださっている期待や想いを、改めて強く感じたところです。

一方で、高層建築物に違和感をお持ちの方や、地下水への影響、交通渋滞、市の財政負担などをご心配される方もいらっしゃいました。そのため、高さを下げる検討や、地下水や地質の調査を進めつつ、交通処理計画の策定、税収効果や経済波及効果の分析を行う準備をしています。

それらの結果に基づき、丁寧な説明を尽くすことで、より多くの皆様にご理解いただけるよう努力していきたいと考えています。

アナ： 今日、いよいよ進み始めた三島駅南口のロータリー西側と東側の開発についてお話を伺ってきました。改めて、三島駅周辺のまちづくりに対する市長のお考えや意気込みを、お聞かせください。

市長： 新幹線三島駅が開業した 1969 年 4 月 25 日から、間もなく 50 年を迎えようとしています。バブル崩壊や東日本大震災など、人々の価値観を変える大きな出来事をいくつも経て、今、成熟社会への転換が迫られています。これからの 50 年、そしてその先も、誰もが健康で豊かに、幸せな毎日をごせる街をつくる源となるのが、東西街区の拠点整備を含む、三島駅周辺グランドデザインの実現だと考えています。これが実現されれば、その効果は、県東部・伊豆地域にも波及していくことでしょう。

これまで三島市民は、富士山からの湧水や緑豊かな景観、歴史、文化などの貴重な資源を守り育んできました。これからさらに、それらの資源を磨いて十分に活かし、東西街区から三島駅広場や楽寿園、市街地へと続く魅力的な街のフロントエリアを作っていくことに、全力で取り組んでまいります。

アナ： この地域のこれからの 50 年を担う拠点づくりに期待しています。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。